

令和6年度 土壌貯蔵施設等の整備・管理等に関する検討委員会(第3回) 議事要旨

1. 日 時：令和6年10月22日（火）

2. 場 所：書面開催

3. 出席委員：遠藤委員長、川瀬委員、清委員、谷委員、登坂委員

4. 議 題

（1）放射能濃度測定装置の校正に係る不正への対応について

5. 要 旨

大熊⑤工区で発生した地下水等の放射能濃度連続測定装置の校正に係る不正への対応に関して、再発防止策の案（装置の品質保証計画書の提出等）や工区別の校正方法・今後の対応（線源のトレーサビリティ確保等）に係る資料を委員に送付し、意見・助言等をいただいた。

主な意見・助言等は以下のとおり。

- ・ 今回提示された再発防止策及び測定装置の校正方法については、概ね妥当と判断する。
- ・ 今後の装置の選定・導入に当たり、他の核種の影響を排除することが重要。
- ・ 校正における溶液線源を使いやすくするため、装置の小型化などを検討してはどうか。また、新規開発された装置の導入を妨げないよう配慮が必要。
- ・ 技術者倫理が重要。例えば、計測結果や校正結果の書面に、倫理観の高い技術者の署名を求めることも考えられる。
- ・ 今般の対応の厳密性・確実性の観点から、有識者の立会いは重要。費用や煩雑さについて考慮が必要だが、可能な限り第三者の介入と確認があった方がよい。
- ・ 測定環境の変化、機器のドリフト・経年劣化などを見逃さない体制作りをすべき。
- ・ 公定の測定に加えて運用上実施している測定については、必要性について整理した上で、そこまで厳格な対応が必要なのか検討すべき。
- ・ 連続測定の必要性や測定頻度について、セシウムの土壌吸着特性やこれまでの管理状況（ゲルマニウム半導体検出器による分析結果等）を踏まえ、本来の管理の目的を達成する妥当な実施頻度等を検討すべき。

以上